



- 第1節 教科や活動の好き嫌い
- 第2節 授業の理解度
- 第3節 授業で好きな学習方法
- 第4節 能動的な学習(アクティブ・ラーニング)や
キャリア教育の実施率

ベネッセ教育総合研究所 研究員 吉本 真代

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

1

教科や活動の好き嫌い

教科・活動の「好き」の比率は、小・中・高校生とも1990年から徐々に増加傾向。とくに「算数・数学」「家庭(技術・家庭)」が共通して10ポイント以上増加した。2006年と比較すると「総合的な学習の時間」の「好き」の比率が大きく増加した。

●小学生が一番好きな教科は「家庭」

2015年調査で、小学生の「好き」の比率(「とても好き」+「まあ好き」の%、以下同)がもっとも高いのは「家庭」の90.2%であった(図1-1-1)。1990年調査の67.8%から比較すると22.4ポイント増加しており、増加幅ももっとも大きい。また今回の調査では、「外国語(英語)活動」について初めてたずねたが、「好き」の比率が77.6%で、全教科・活動の中で高い方から4番目に位置している。さらに、1990年から漸増を続けているのが「算数」で、1990年調査の51.8%から2015年は68.4%と16.6ポイント増加している。

●中学生は「社会」と「総合的な学習の時間」の「好き」の比率が増加

中学生で、もっとも「好き」の比率の高いのは「保健体育」66.6%である。また、前回2006年調査と比較して大きく「好き」が増加したのが「社会」と「総合的な学習の時間」で、いずれも16.7ポイント増えている。

1990年から比較すると、「国語」「数学」「英語」「音楽」「美術」「技術・家庭」で10ポイント以上増加しており、なかでも「数学」が17.3ポイントと増加幅が大きい。なお、中学生は教科間で、好きの比率の差が小学生に

比べると小さく、「保健体育」以外はすべて5割台となっている。

●高校生の「理科」「数学」の「好き」の比率が上昇傾向

高校生で、「好き」の比率が高いのは、「芸術(音楽・美術など)」(60.5%)、「保健体育」(56.7%)、「地歴・公民」(52.1%)である。その他は5割に満たない(図1-1-2)。

前回2006年調査と比較して増加幅が大きいのは、中学生同様「総合的な学習の時間」で、14.6ポイント増加している。ただし、全教科・活動の中では「好き」の比率の順位はもっとも低く、9番目に位置している。

1990年からの変化をみると、「数学」「理科」「家庭」で10ポイント以上の上昇がみられる。

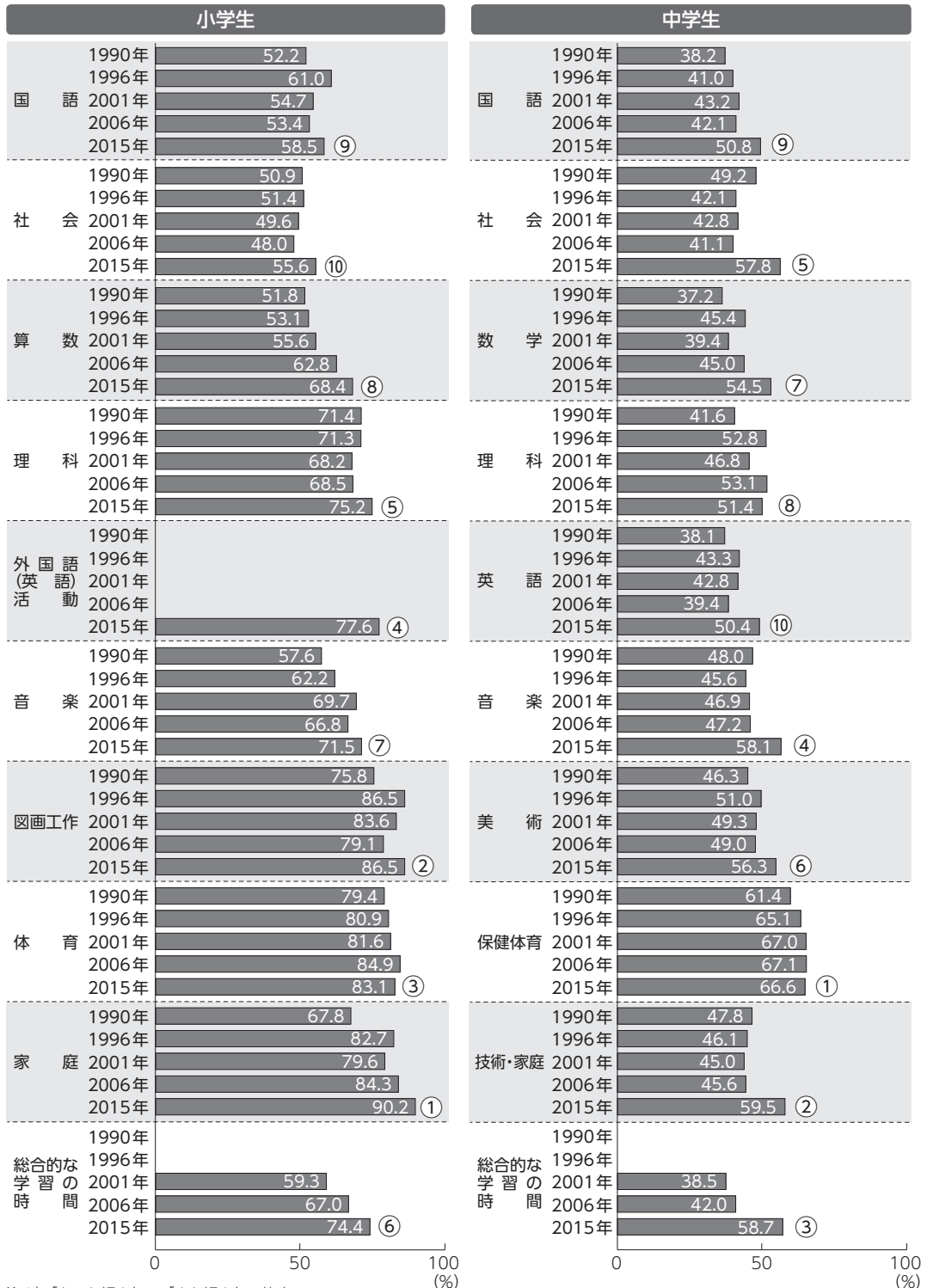
●小・中・高校生に共通してみえる傾向

ほとんどの教科・活動で小・中・高校生とも、1990年に比べて「好き」の比率が増加している。とくに共通して10ポイント以上の増加がみられるのが「家庭(技術・家庭)」と「算数・数学」である。また、2006年調査に比べて、2015年調査で共通して大きく上昇しているのは、2002年に必修化された「総合的な学習の時間」である。



あなたは、つぎの教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

図1-1-1 教科や活動の好き嫌い（小学生・中学生、経年比較）



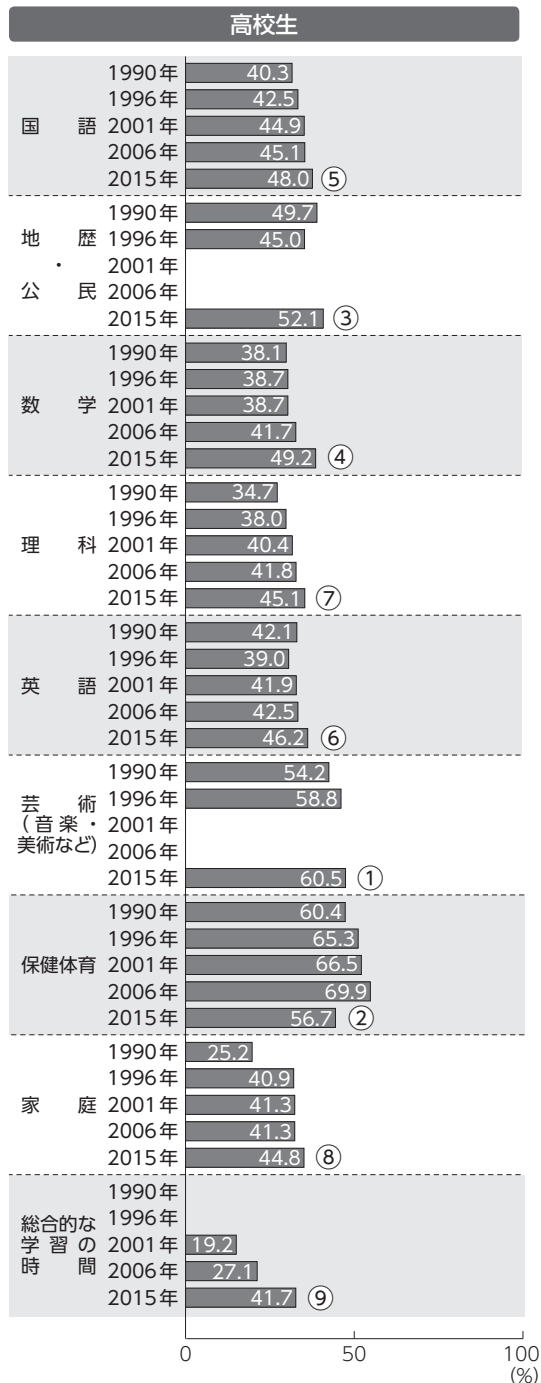
注1) 「とても好き」 + 「まあ好き」の比率。

注2) 「保健体育」は1990年、1996年、2001年、2006年は「体育」としてたずねている。

注3) 「総合的な学習の時間」は2001年は「やっていない」「履修したことがない」を除いて集計。

注4) ①～⑩は、2015年における教科や活動の「とても好き」 + 「まあ好き」の比率の順位を表す。

図1-1-2 教科や活動の好き嫌い（高校生、経年比較）



注1) 「とても好き」 + 「まあ好き」の比率。

注2) 「保健体育」は1990年、1996年、2001年、2006年は「体育」としてたずねている。

注3) 「総合的な学習の時間」は2001年は「履修したことがない」を除いて集計。

注4) 「地歴・公民」は1990年は「社会」としてたずねている。2001年と2006年は「地歴」と「公民」に分けてたずねているため表示していない。

注5) 「芸術（音楽・美術など）」は1990年は「芸術」としてたずねている。2001年と2006年は「音楽」と「美術」に分けてたずねているため表示していない。

注6) ①～⑨は、2015年における教科の「とても好き」 + 「まあ好き」の比率の順位を表す。

小・中・高校生とも全体に授業の理解度は上昇傾向。1990年調査と比べると、小学生は「社会」、中学生は「国語」、高校生は「理科」で理解度の上昇幅が大きい。

「国語」「社会」「算数・数学」「理科」「英語・外国語活動」の5教科について授業の理解度をたずねた。

●7割の小学生が「外国語（英語）活動」を「ほとんど」または「だいたいわかっている」小学生は、「算数」「理科」で「ほとんどわかっている」の回答比率が高く、いずれも46.6%と半数近くが理解できている（図1-2-1）。とくに「理科」は前回2006年

調査から13.0ポイントと大きく増えた。「だいたいわかっている（70%くらいわかっている）」まで含めると82.3%ともっとも高い。また、「外国語（英語）活動」は今回初めてたずねたが、「ほとんどわかっている」+「だいたいわかっている（70%くらい）」の比率が73.4%と7割を超えている。「ほとんどわかっている」+「だいたいわかっている（70%くらい）」の比率を1990年調査と比較すると、「社会」（17.5ポイント増）、「算数」（15.5

Q 学校の授業をどのくらい理解していますか（わかっていますか）。

図1-2-1 授業の理解度（小学生、経年比較）

	年	理解度 (%)			
		ほとんどわかっている	だいたいわかっている (70%くらいわかっている)	あんまりわかっていない (30%くらいしかわかっていない) はんぶんくらいわかっている	ほとんどわかっていない 無回答・不明
国語	1990年	20.2	42.7	29.1	6.0
	1996年	25.0	42.0	26.0	5.2
	2001年	26.6	44.6	23.1	4.0
	2006年	26.7	44.1	22.4	5.2
	2015年	34.5	41.6	19.3	3.6
社会	1990年	18.1	36.4	31.5	10.9
	1996年	18.4	38.1	30.4	9.9
	2001年	22.2	39.3	28.9	7.5
	2006年	24.8	39.5	25.9	7.3
	2015年	32.6	39.4	20.6	5.9
算数	1990年	29.2	33.2	23.6	10.2
	1996年	28.5	31.8	24.3	11.3
	2001年	35.8	33.3	20.1	7.8
	2006年	42.3	31.6	17.2	6.9
	2015年	46.6	31.3	15.1	5.3
理科	1990年	28.2	42.3	23.0	4.9
	1996年	29.4	41.9	22.5	4.8
	2001年	31.5	41.1	21.2	4.2
	2006年	33.6	43.4	17.8	3.8
	2015年	46.6	35.7	13.5	3.0
外国語 (英語)活動	2015年	40.8	32.6	17.6	5.7

注1)「無回答・不明」は数値の表記を省略している。注2)「外国語（英語）活動」は2015年のみたずねている。

ポイント増)、「国語」(13.2ポイント増)、「理科」(11.8ポイント増)の順に増加幅が大きくなっており、どの教科も1990年より理解度は上昇している。

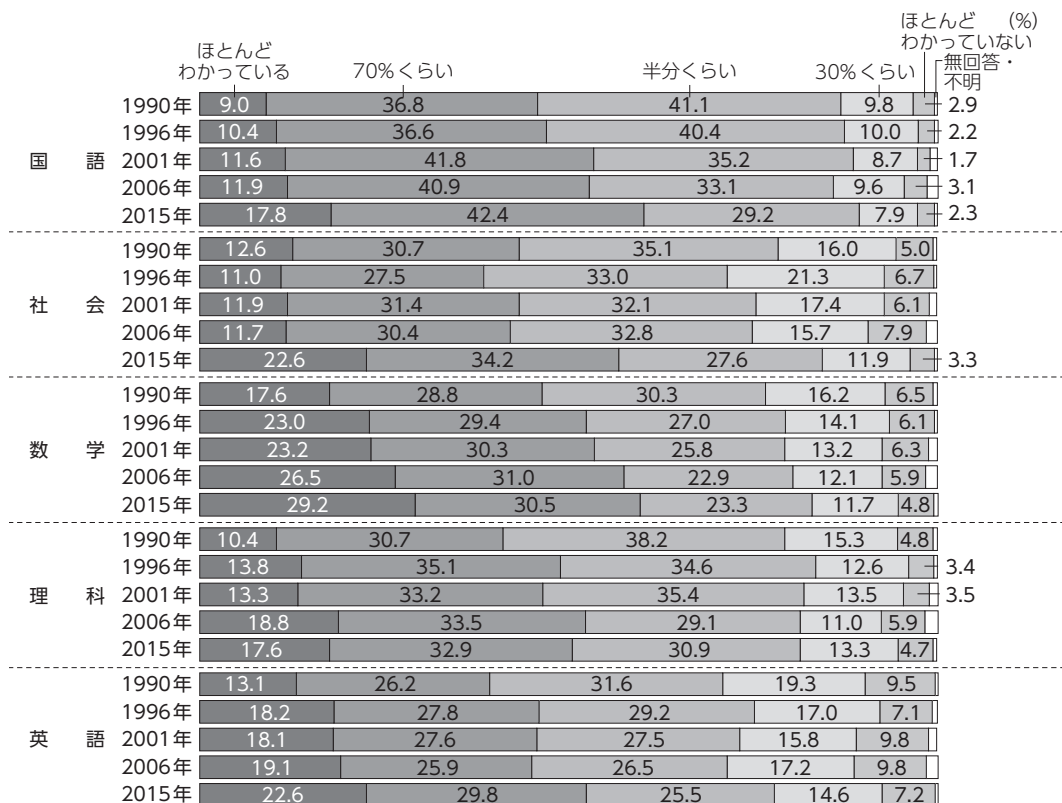
●中学生の「社会」の理解度が2006年比で10.9ポイント上昇

中学生の「ほとんどわかっている」の比率をみると、「数学」が29.2%でもっとも高い(図1-2-2)。反対に、もっとも低いのが「理科」の17.6%で、前述のとおり小学生が5割近くと高いのに対して大きな差がみられ

る。また、前回の2006年と比較して増加幅が大きいのは「社会」で10.9ポイントアップしている。

次に、「ほとんどわかっている」+「70%くらい」の比率をみていくと、5教科とも5～6割であり、1990年調査と比較すると、「国語」「社会」「数学」「英語」は13ポイント以上の上昇(順に14.4、13.5、13.3、13.1ポイント)、「理科」は9.4ポイントの上昇となっており、小学生と同様にいずれの教科の授業も理解度は上がっている。

図1-2-2 授業の理解度(中学生、経年比較)



注)「無回答・不明」は数値の表記を省略している。

●高校生は1990年比でどの教科も理解度が10ポイント以上上昇

高校生の「ほとんどわかっている」の値を見ると、どの教科も1割前後であり、「70%くらい」も含めると、「国語」がもっとも高く55.7%、「理科」がもっとも低く46.1%であり、5教科とも4割台半ば～5割台半ばとなっている（図1-2-3）。

1990年調査からの、「ほとんどわかっている」+「70%くらい」の比率の変化をみると、増加幅が大きいのは「理科」で20.1ポイント増である。その他「国語」「地歴・公民」「数学」「英語」も10ポイント以上増加しており（順に18.0、15.7、12.7、12.7ポイント増）、いずれの教科も上昇傾向にある。

図1-2-3 授業の理解度（高校生、経年比較）

		ほとんどわかっている	70%くらい	半分くらい	30%くらい	ほとんどわかっていない	無回答・不明	(%)
国語	1990年	5.3	32.4	43.1	12.4	4.8		
	1996年	6.7	34.6	42.3	11.9	4.2		
	2001年	7.7	37.2	40.6	10.4		3.2	
	2006年	8.5	38.7	37.8	11.0		3.7	
	2015年	11.1	44.6	34.5	7.5		2.1	
地歴・公民	1990年	8.2	30.1	38.8	15.5	5.5		
	1996年	7.8	29.9	40.4	15.3	6.0		
	2001年							
	2006年							
	2015年	13.1	40.9	34.4	8.8		2.3	
数学	1990年	6.4	28.2	35.2	18.3	10.0		
	1996年	6.6	25.0	34.3	21.0	12.3		
	2001年	7.2	25.4	36.2	20.2	9.4		
	2006年	8.9	30.4	33.5	18.0	8.4		
	2015年	10.8	36.5	33.5	14.6	4.5		
理科	1990年	3.4	22.6	41.5	20.0	10.4		
	1996年	5.1	22.2	41.6	20.8	9.3		
	2001年	6.0	25.6	41.3	18.0	7.1		
	2006年	6.1	30.1	39.6	17.4	6.1		
	2015年	8.5	37.6	38.7	12.0		3.0	
英語	1990年	7.6	27.9	37.3	18.2	7.1		
	1996年	6.3	25.0	37.6	20.7	10.2		
	2001年	8.5	29.8	37.0	17.3	6.1		
	2006年	9.1	30.2	36.1	16.9	7.3		
	2015年	11.8	36.4	34.5	12.9	4.2		

注1) 「地歴・公民」は、1990年は「社会」、1996年と2015年は「地歴・公民」としてたずねている。2001年・2006年は「地歴」「公民」に分けてたずねているため、表示していない。

注2) 「無回答・不明」は数値の表記を省略している。

3

授業で好きな学習方法

小学生が授業でもっとも好きな学習方法は「パソコンやタブレットを使ってする勉強」、中・高校生は「先生が黒板を使いながら教える授業」。2006年と比べると「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業」が小・中・高校生とも10ポイント以上の上昇となったが、中・高校生では「好き」の割合は5割に満たない。

●アクティブ・ラーニング型の授業を「好き」という回答が増えている

授業で好きな学習方法について2001年からたずねている。今回の結果では、全体的に主体的・協働的な学習方法（アクティブ・ラーニング）について「好き」の比率（「とても好き」＋「好き」、以下同）が増えている項目が多い。とくに小・中・高校生とも2006年比で増加幅が大きいのが「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業」（小：13.4ポイント増、中：15.5ポイント増、高：13.3ポイント増）である。ただし、中・高校生では増えていてもまだ5割には満たない。また、「いろいろな人に話を聞きに行っている授業や調査」（小：12.1ポイント増、中：10.6ポイント増、高：9.0ポイント増）、「個人で何かを考えたり調べたりする授業」（小：11.5ポイント増、中：8.6ポイント増、高：11.6ポイント増）も共通して増加幅が大きくなっている。

●小学生がもっとも好きなのは「パソコンやタブレットを使ってする授業」

学校段階別にみると、小学生で、もっとも「好き」が多いのは「パソコンやタブレットを使ってする授業」（90.7%）である（図1-3-1）。ついで「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」（89.2%）、「グ

ループで何かを考えたり調べたりする授業」（88.2%）、「友だちと話し合いながら進めていく授業」（86.0%）、「先生が黒板を使いながら教える授業」（86.0%）と続き、こうした校外学習やグループ学習、講義形式の授業はいずれも2001年調査時から8割を超え、子どもたちが好きな授業方法であることには変わりはない。2001年からみて大きく「好き」が増えたのは「個人で何かを考えたり調べたりする授業」（2001年51.3%→2015年68.7%の17.4ポイント増）であった。

●中学生は「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」の「好き」が増加傾向

中学生で、もっとも「好き」が多いのは（図1-3-2）、「先生が黒板を使いながら教える授業」（77.9%）で、ついで「友だちと話し合いながら進めていく授業」（74.1%）、「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」（72.0%）、「グループで何かを考えたり調べたりする授業」（71.8%）と続く。グループ学習や校外学習が高いのは小学生とほぼ同じ傾向であるが、小学生より若干「好き」の比率が低い。2001年調査から大きく増加したのは「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」（2001年41.5%→2015年57.7%の16.2ポイント増）であった。

図1-3-1 授業で好きな学習方法（小学生、経年比較）

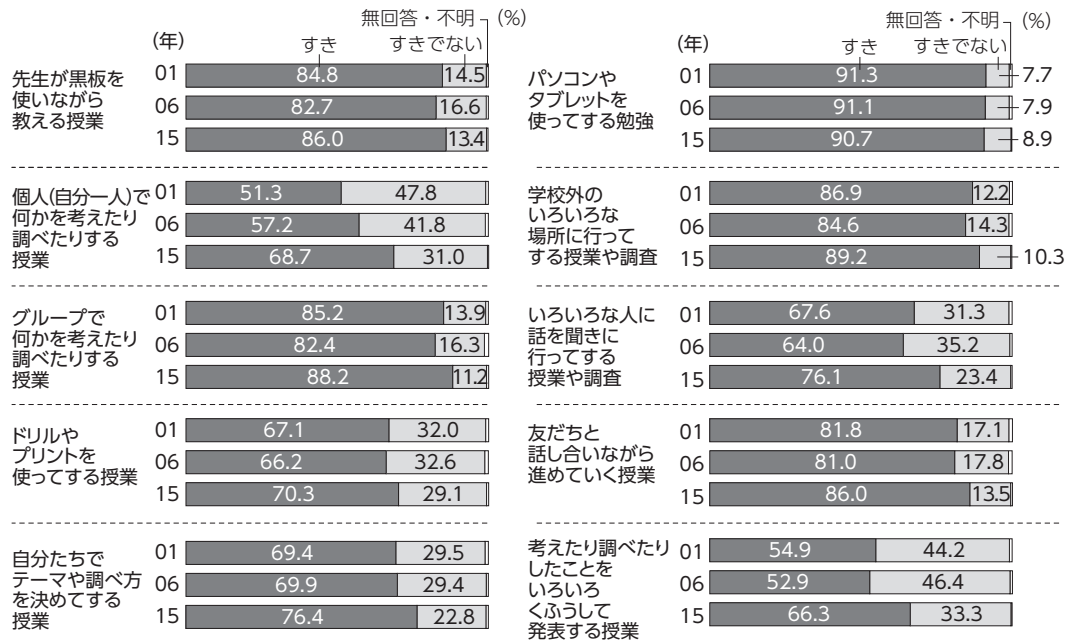


図1-3-2 授業で好きな学習方法（中学生、経年比較）

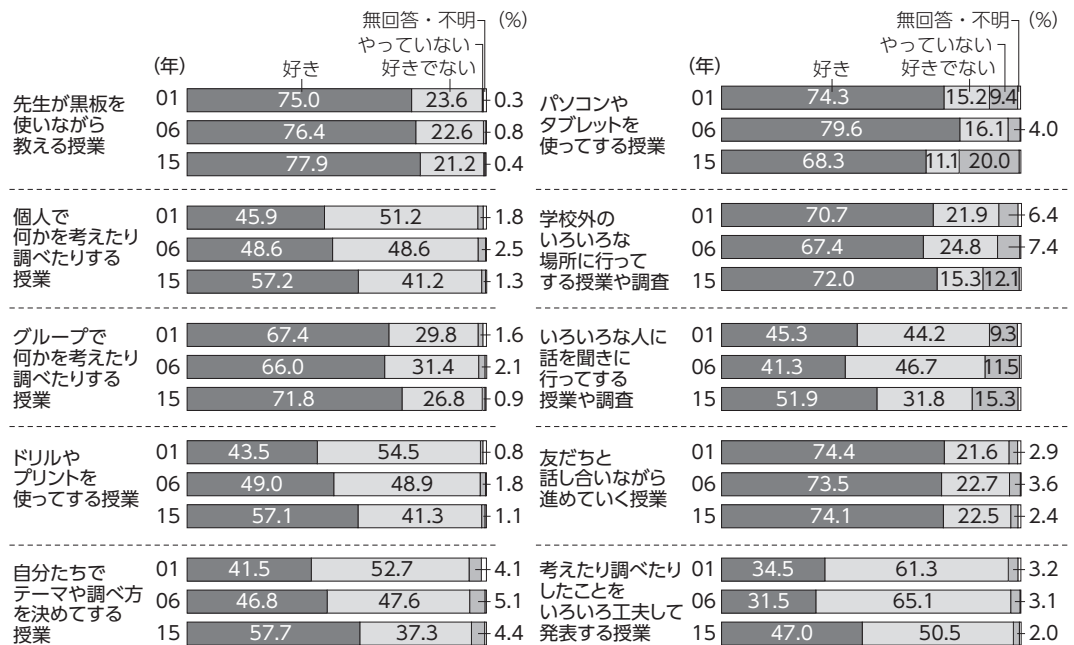


図1-3-1、図1-3-2について

注1) 「好き」は「とても好き」+「好き」の比率、「好きでない」は「好きでない」+「ぜんぜん好きでない」の比率。

注2) 小学生は「とても好き」「好き」「好きでない」「ぜんぜん好きでない」の4つの選択肢、中学生はそれに「やっていない」を含めた5つの選択肢でたずねている。

注3) 「パソコンやタブレットを使ってする授業」は2001年・2006年は「パソコンを使ってする勉強」としてたずねている。

注4) 「無回答・不明」は数値の表記を省略している。

●グループ学習を「好き」な高校生が増える

高校生も、中学生と同様にもっとも「好き」の比率が高いのは「先生が黒板を使いながら教える授業」(80.4%)である(図1-3-3)。ついで「友だちと話し合いながら進めていく授業」(70.5%)、「グループで何かを考えたり調べたりする授業」(62.8%)となっており、これらグループ学習の2項目は、2006年と比較してそれぞれ9.8ポイント増、13.9ポイント増と、2015年調査で大きく増えている。反対に、「好き」の比率が低いのは、「いろいろな人に話を聞きに行つてする授業や調査」(35.8%)、「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」(36.9%)、「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業」(38.3%)であり、いずれも4割に満た

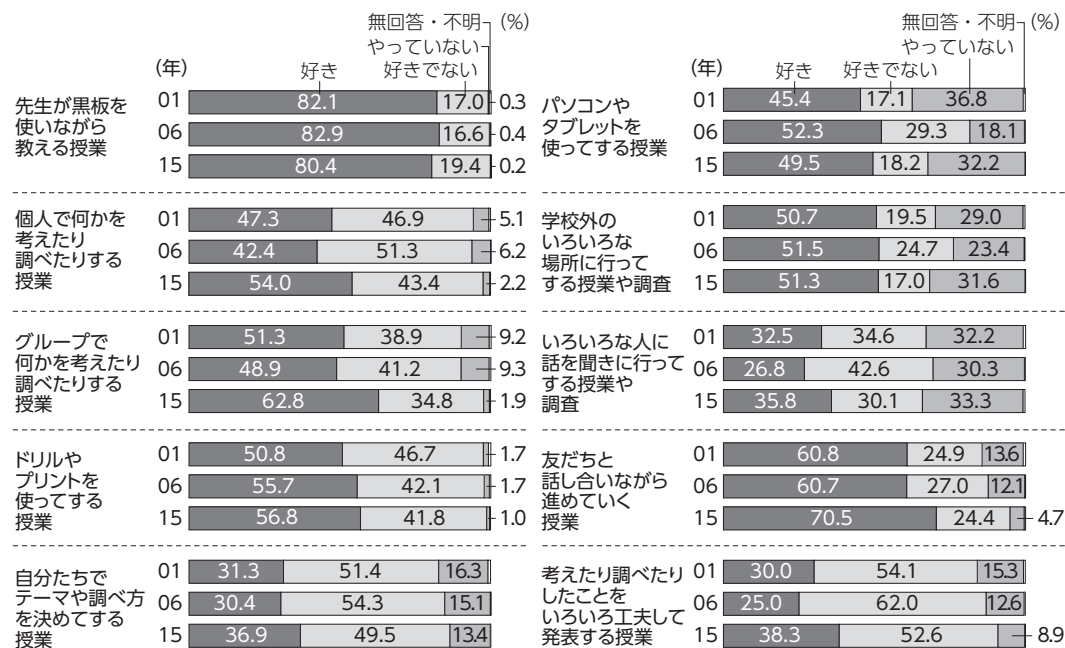
ないものの、2006年調査と比べて、それぞれ9.0ポイント増、6.5ポイント増、13.3ポイント増と増加している。

●主体的・協働的な学習方法に対する成績自己評価別の意識の違い—小・中学生

次に、主体的・協働的な学習方法(アクティブ・ラーニング)のうち5項目をとりあげて、小・中学生は成績の自己評価別に、高校生は学校の平均偏差値帯別にみていきたい。

まず、小学生をみると、「個人で何かを考えたり調べたりする授業」「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業」「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」の「好き」の比率は、成績層別の差が大きい(図1-3-4)。一方、「グループ

図1-3-3 授業で好きな学習方法(高校生、経年比較)



注1) 「好き」は「とても好き」+「好き」の比率、「好きでない」は「好きでない」+「ぜんぜん好きでない」の比率。
 注2) 高校生は「とても好き」「好き」「好きでない」「ぜんぜん好きでない」「やっていない」の5つの選択肢でたずねている。
 注3) 「パソコンやタブレットを使ってする授業」は2001年・2006年では「パソコンを使ってする勉強」としてたずねている。
 注4) 「無回答・不明」は数値の表記を省略している。

で何かを考えたり調べたりする授業」「友だちと話し合いながら進めていく授業」は相対的に成績層別の差が小さくなっており、このような、グループで一緒に話したり、考えたり調べたりする授業は、成績層にかかわらず「好き」が高いことがわかる。

これを中学生でみると、どの項目も小学生より成績層別の差が小さくなっていることがわかる(図1-3-5)。小学生に比べて、全体に「好き」の比率が下がるが、とくに上位層の下げ幅が大きくなっている。

図1-3-4 授業で好きな学習方法5項目(小学生、成績の自己評価別、経年比較)

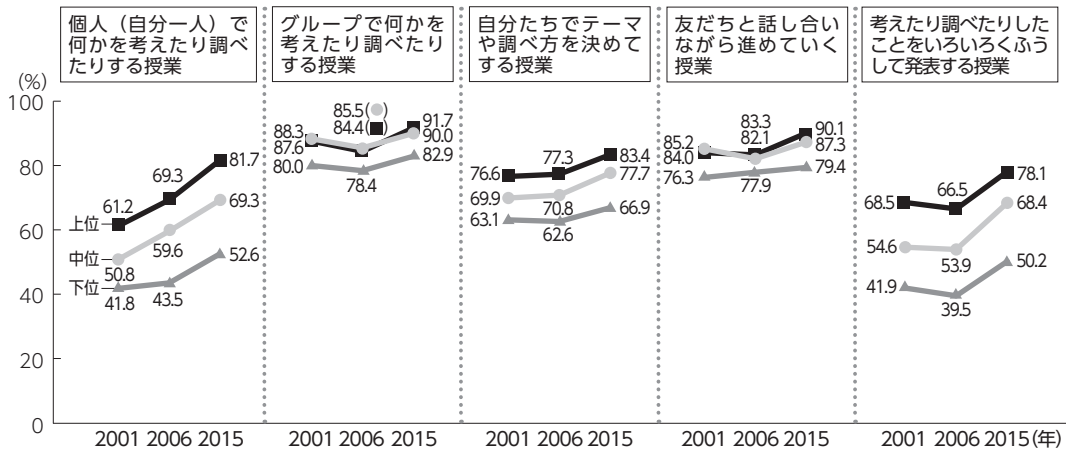


図1-3-5 授業で好きな学習方法5項目(中学生、成績の自己評価別、経年比較)

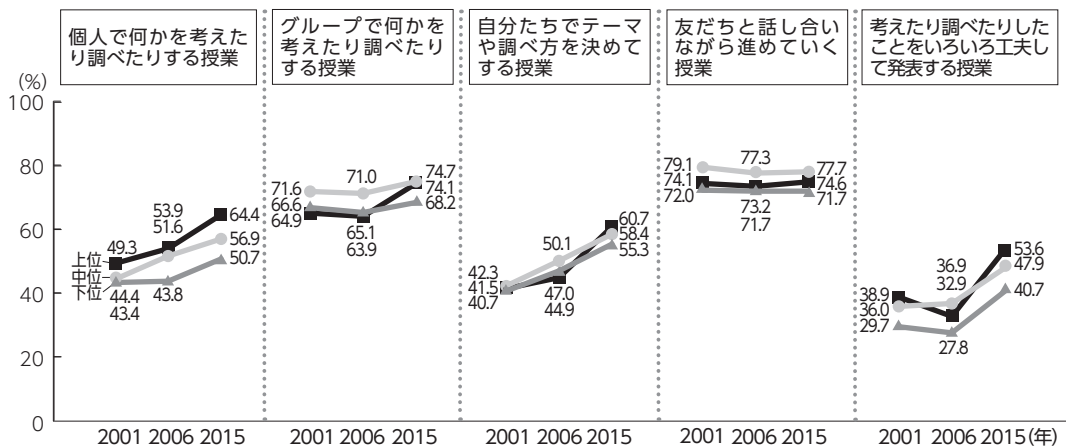


図1-3-4、図1-3-5について

注1) 小学生は「とても好き」「好き」「好きでない」「ぜんぜん好きでない」の4つの選択肢、中学生は「とても好き」「好き」「好きでない」「ぜんぜん好きでない」「やっていない」の5つの選択肢でたずねている。

注2) 「とても好き」+「好き」の比率。

注3) 全調査回の成績の自己評価別の人数は以下のとおり。

	小学生			中学生		
	上位	中位	下位	上位	中位	下位
1990年	760	859	931	940	557	1,017
1996年	809	916	886	1,029	578	1,088
2001年	750	809	775	873	602	980
2006年	924	799	923	828	475	1,006
2015年	977	753	806	982	601	1,076

次に、成績層別の経年変化に着目すると、「個人で何かを考えたり調べたりする授業」は、小・中学生とも2001年に比べて成績層別の差が広がる傾向にある。また、中学生については、「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業」で、前回2006年と比べて成績上位層の増加幅が大きく、それぞれ15.8ポイント増、20.7ポイント増となっている。

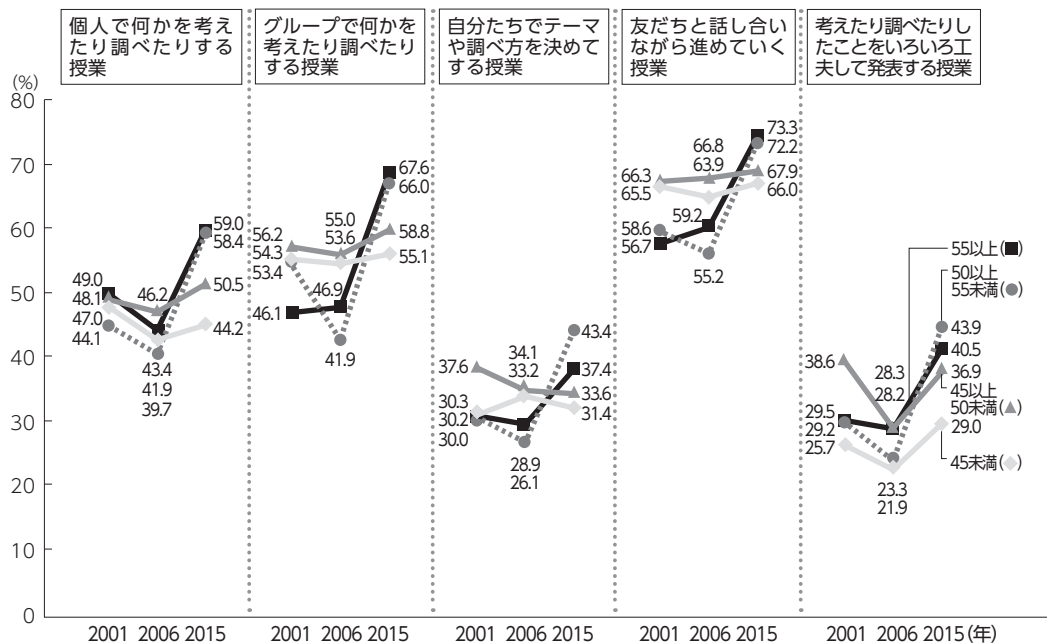
●高校生は偏差値50以上の学校の生徒で「好き」の増加幅が大きい

高校生について、学校の平均偏差値帯別にみると、2006年と比べて偏差値「55以上」と「50以上55未満」の層で大きく上昇していることが特徴的である（図1-3-6）。とくに「グループで何かを考えたり調べたりする授業」「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」「友だちと話し合いながら進

めていく授業」といった協働的な学習方法については、2001年、2006年とも偏差値50以上の層の方が、偏差値50未満の層より「好き」が低かったのが、2015年調査では、偏差値50以上の層で大きく増加したのに対し、偏差値50未満の層ではほぼ横ばい傾向であったため、逆転している。進学校においても主体的・協働的な学習方法に取り組むようになってきていることのあらわれと推測される。

また、偏差値帯別の差をみると、「個人で何かを考えたり調べたりする授業」「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業」で偏差値帯別の差が大きい。これは小・中学生と同様の傾向である。さらに「個人で何かを考えたり調べたりする授業」については、経年で偏差値帯別の差が広がっていることも小・中学生の成績自己評価別の傾向と同様である。

図1-3-6 授業で好きな学習方法5項目（高校生、学校偏差値帯別、経年比較）



注)「とても好き」+「好き」の比率。

能動的な学習の実施率は小学生>中学生>高校生の順に高い。高校生は小・中学生に比べて全般に実施率が低い。その中でも、グループで話し合ったり、話し合った内容をまとめたりする活動については、小・中・高校生とも実施率が高く、小・中学生で7~8割、高校生も6割前後が「する」と回答している。

●グループでの話し合いは小・中・高校生とも実施率が高い

能動的、探究的な学習活動について、どの程度行っているかをたずねた(図1-4-1)。全体的に実施率(「よくする」+「時々する」、以下同)は小学生>中学生>高校生の順に高くなっている。小・中・高校生とも実施率が高いのは「⑧テーマについてグループで話し合う」「⑨グループで話し合った内容をまとめる」といったグループ活動に関する項目である。また、「②どのように調べればよいかを考える」「③インターネットを使って何か調べる」といった「調べる」活動に関する項目も相対的に高い。小学生では「②どのように調べればよいかを考える」は81.4%と最も高くなっている。小・中学生では「④観察・実験や調査などで考えを確かめる」も実施率が高い。

そしてその次に、それらをまとめたり、発表したりというような表現活動に関する項目

が高くなっている。具体的には「⑤調べたことを文章にまとめて提出する」「⑥自分の考えを図表や写真などを使って表現する」「⑩学習のまとめをみんなの前で発表する」といった項目である。ただし、高校生については約3分の1またはそれ以下の実施率である。

小・中・高校生とも相対的に実施率が低いのが、「⑫学校外のいろいろな人に話を聞きに行く」「⑬環境問題や地域の課題の解決方法について考える」の項目で、小学生でも4~5割、高校生では1割台である。学校外や地域で学ぶ活動は高校ではほとんど行われていないといえる。

また、キャリア教育・進路学習に関してたずねた2つの項目については、高校生>中学生>小学生の順に実施率が高い。「⑭進学する学校や将来の仕事について調べたり考えたりする」は、小・中・高校生とも約4分の1が「よくする」と答えている。

Q あなたは授業の中で、次のような学習をどのくらい行っていますか。

図1-4-1 能動的な学習・キャリア教育の実施率（小学生・中学生・高校生、2015年）

